

1 はじめに

喜多支部では、規模が小さいことをメリットにするべく、新しい研修会の在り方や外部の人材の活用の形を模索している。

2 実践事例

(1) G I G Aスクール端末に関する研修会（令和3年8月11日、11月2日）

G I G Aスクール端末として運用が始まった Chromebook について、町教育委員会と連携を図り、活用方法の講習会と、持ち帰り等の管理運用についての検討会を開催した。

まず、各校の情報教育主任があらかじめオンライン講座を受けた上で「Google Kickstart Program」研修会に参加した。基本的な仕様や動作を理解した段階で講師の指導を受けることで、個人差が少なくなり、研修の効率が高まったと感じた。

その後、準備が整った学校から、順次、端末の持ち帰りと家庭での接続等を確認した。先行した学校が、手順や保護者向けの資料等をグループウェアで共有することで、全学校がスムーズに持ち帰りを実施できた。また、町教育委員会も絵画コンクールのオンライン展示会を実施する等して協力した。



【支部で共有した資料の一部】

(2) 授業における I C T支援員の活用（小田小学校の取組）

町の I C T支援員を活用し、授業実践を行っている。

○ 5・6年総合的な学習の時間「小田の林業の未来」

地場産業である林業について、機械化と情報化による進歩に触れ、産業用ドローンを紹介した。その後、トイドローンをタブレット端末でプログラミングし、操縦する活動を通して自動化の良さや将来の林業の姿について考えさせた。児童は算数科でのブロックプログラミングの経験を生かし、林業の現場を想定したコースを思い思いに設定し、熱心に活動していた。I C T支援員は、プログラミング教室での実践例を提供し、当日は補助を行った。

○ 課外活動「うちこ未来塾（ロボットプログラミング）」

町教育委員会主催の課外活動であるプログラミング教室「うちこ未来塾」を、小田小学校を会場に、教職員も参加して行った。内容は、「LEGO wedo 2.0」を使った悪路走行ロボットのプログラミング実習と、ローバーを開発している業者とのオンライン会議であった。

I C T支援員が、ワークシートの作成、ゲストティーチャーとの連絡・調整を行ったため、教職員は児童の支援と評価に集中することができた。



【ドローンのプログラミング】



【うちこ未来塾の様子】

3 成果と課題

本支部は規模が小さく、各校の環境や主任の経験等に大きな差がある。各校で知恵を絞り、情報を共有することで、支部全体としてのまとまりが強まった。今後も活動を充実させていきたい。